

地域（磐田市）小規模事業者の動向（平成27年12月調査）

【調査の概要】

- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業50社
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業10社、製造業15社（輸送関連10社、その他5社）、小売業10社、飲食業5社、サービス業10社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較及び対前月との比較
項目：売上高、仕入単価、資金繰り
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。

（注）今回調査は2回目であり、前回調査（平成27年9月）との増減比較による改善の方向性分析も行った。

（注）当会の調査は調査対象が50社と限られているため、地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

【製造業の状況】

製造業の景況天気図



●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は当会調査では-13.33、前期比では13.33%悪化となった。輸送関連製造業とその他製造業では、前者の売上額DIは-30.0、後者は20.0であり、輸送関連製造業の減速感が大きい。

静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）の調査では売上額DIは-0.70であった。前期比では4.0%の改善となっている。

●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇－下降）は当会調査では0.00、前期比では13.33%改善となった。輸送関連製造業とその他製造業は、ほぼ同じ指標になっている。

しんきん経済研究所では6.10であった。前期比では10.1%の改善となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りDI（好転－悪化）は当会調査では-6.67、前期比では13.33%改善となった。その他製造業の改善が大きい（40%の改善）

しんきん経済研究所では-9.40であった。前期比では7.9%の改善となっている。

大企業の収益改善が進み、緩やかな改善基調が続く一方、その恩恵が小規模事業者にまでは行き渡っていない。先行きの指標変動要因として、中国経済の後退といった不安材料にも注意する必要がある。

●調査員コメント

- ・仕事量が多いが、先行きの不透明感は否めない。(自動車部品)
- ・年初から3月までの受注見通しは順調。(自動車部品)
- ・取引先の量産品が減少したため売上高はダウン。仕入単価は横ばいで利益は減少。(自動車部品)
- ・特殊用途の部品製造であるため、大きな変動はない。(自動車部品)
- ・原油価格が下がっているが、合成樹脂などの仕入単価に反映されるのは6ヵ月後となる。

【建設業の状況】

建設業の景況天気図



●売上額の動向

売上額D I (増加-減少)は当会調査では-30.0、前期比では増減なしであった。一方、しんきん経済研究所では23.4であった。前期比では37.7%の改善となっている。日本銀行静岡支店の調査でも「業況D Iは改善している」と報告されている。

双方のD I値に大きな差があるのは、当会の調査対象は小規模事業者に限定していることが差の原因の一つと考えられる。

●仕入単価の動向

仕入単価D I (上昇-下降)は当会調査では50.0、前期比では10.0%悪化となった。仕入価格の上昇感は強い。

しんきん経済研究所では21.9であった。前期比では13.0%の改善となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りD I (好転-悪化)は当会調査では-20.0、前期比では10.0%改善となった。しんきん経済研究所では-10.9であった。前期比では5.0%の改善となっている。

●調査員コメント

- ・年度末に入り公共工事の受注が増加。
- ・持続化補助金による受注が2件あり、地域事業への好影響を実感する。
- ・建設資材が高騰している。
- ・建具に既製品を使うことが多くなっているため受注額が減少している。

【小売業の状況】

小売業の景況天気図



●売上額の動向

売上額D I (増加-減少)は当会調査では-30.0、前期比では増減なしであった。しんきん経済研究所では5.6であった。前期比では9.4%の改善となっている。

当会としんきん経済研究所の調査には大きな差がある。当会の調査対象は小規模事業者に限定していることが差の原因の一つと考えられる。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は当会調査では30.0、前期比では20.0%改善となった。しんきん経済研究所では20.4であった。前期比では1.5%の悪化となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は当会調査では0.0、前期比では20.0%改善となった。しんきん経済研究所では-14.8であった。前期比では4.1%の改善となっている。

●調査員コメント

- ・近くに大型店があるが、商品の差別化を行っているため固定客が確保されている。
- ・顧客の世代交代が進み、今までであった人情は薄くなり、大型量販店等を利用するケースが増えた。
- ・売上は減少、仕入単価は上昇しているため利益は減少している。
- ・従業員が定着しない。理由は、勤務時間が朝は早く夜も遅くなるため。

【飲食業＋サービス業の状況】

景況天気図



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は当会調査では-13.33、前期比では5.33%悪化となった。しんきん経済研究所では0.0であった。前期比では30.0%の改善となっている。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は当会調査では20.0、前期比では8.0%の改善となっている。しんきん経済研究所では20.0であった。前期比では10.0%の悪化となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は当会調査では-6.67、前期比では1.33%の改善となっている。しんきん経済研究所では-20.0であった。前期比では20.0%の改善となっている。

当会としんきん経済研究所の調査結果の差は、当会の調査件数が少ないこと、及び小規模事業者に限定していることが原因と考えられる。

会員企業には持続化補助金を活用して事業の活性化を図る企業が多く、今後の自助努力による改善を期待している。

●調査員コメント

- ・持続化補助金で電動いすの設置と店内のリフォームを行い、顧客に好評を得ている。（美容室）
- ・経営革新で認定された販売形式が順調に推移している。（食堂）
- ・事業所の廃業に伴い顧客が減り、売上が減少している。（印刷）
- ・固定客に恵まれているものの、売上は減少傾向にある。
- ・持続化補助金を活用して、真空パック機械の購入と店舗改装を行い、更なる売り上げ増を図りたい。（食堂）
- ・現在は消費税を頂いていない。10%になったとき考える。